

を創り出すために 取り組んでいます



美郷雪華 いっぱい運動

美郷町のオリジナル品種であるホワイトラベンダー「美郷雪華」をきっかけにした、商店街の活性化事業の一つ。各商店の軒先にプランターが設置され、初夏を迎えた商店街に美郷雪華の明るさが加わりました。

六郷高校の生徒がこの運動に参加し、プランター100個に美郷雪華を植栽したほか、各商店への配達も行いました。



六郷地区の 商店街食べ歩き

旅行代理店と連携し、六郷地区の商店街食べ歩きを企画。見ごろを迎えていたラベンダー園へのツアーに合わせて実施し、県内外から約450人のツアー客が商店街を訪れました。

休憩場所となっていた名水市場湧太郎では、六郷小学校の児童が自作のパンフレットを用いて、ツアー客へ美郷町のPRを行いました。



歳末大売り出し &福引大会

数年前まで行われていた歳末大売り出しと福引大会を、協力店舗数を2倍以上に増やした形で復活。福引大会への参加者は延べ340人、福引券の回収率も7割を超えました。

六郷小学校の児童がお手伝いとして関わり、福引の補助係を行ったほか、自作の観光マップを用いて、参加者へ商店街のPRを行いました。

参加者の声



荒田航太郎さん
(六郷小5年)

活動のお手伝いをして、お客さんと明るく触れ合えて良かったです。地域の人たちと交流できる良い機会だなと思いました。



斎藤はるなさん
(六郷小5年)

商店街にたくさん人が来てくれたら嬉しいです。お祭りの時だけでなく、普段から商店街が明るくなったらいいなと思いました。



高橋伸幸さん
(秋田市)

六郷町出身で、昔のにぎやかさが記憶に残っています。こういった活動を通して、地域の活性化につなげてほしいです。



進藤ユリ子さん
(本堂西部)

普段から買い物をするために商店街へ足を運んでいます。以前より、商店街が活気にあふれているように感じます。

商店街に「にぎわい」 地域が一体となつて

インタビュー

まちなかエリア活性化実行委員会

会長 小西正一郎さん

Q 取り組みへの
意気込みについて

私たちが幼いころの商店街は活気にあふれ、毎日「にぎわい」を感じる事ができました。その時の商店街の姿が忘れられず、「あの時のにぎやかさをもう一度」という思いで、昨年からさまざまな取り組みを行ってきました。取り組みの成果は、着実に始めていると感じています。

Q 成果の要因は

成果が出始めている要因の一つに、六郷小学校と六郷高校の児童生徒の皆さんの存在があります。さまざまな場面で協力してもらい、昨年はたくさんの方々に商店街へお越しいただきました。子どもたちには、今回の取り組みを通して、商店街の良さや楽しさを感じてもらえたのではないのでしょうか。最近は商店街に子どもたちの姿が見えなくて寂しく感じていましたが、これからは商店街へどんどん遊びに来てほしいと思います。私たちと同じように、「商店街って楽しい！」という思い出を残してくれたら嬉しいです。

Q 商店街の「良さ」や「役割」について

商店街は、「地域コミュニティ」という位置付けにあると私は思います。買い物だけではなく、困り事や相談事も聞いてもらえます。これが商店街の良さだと思っています。確かに、多くの商品を取り扱っている近隣の大型店舗等に比べると、「帯に短し、褌（たすき）に長し」状態であることは否定できませんが、「人と人と

Q 取り組みの「先」に
見据えるものは

まちなかエリア活性化に向けた取り組みを成功させ、その効果を美郷町全域に波及させていきたいと考えています。最終的な目標は、美郷町全域の子どもから大人を合わせた「オール美郷」でのにぎわい創出です。そのためには、まずは六郷地区の商店街が今以上に「地域の皆さんに愛され、必要とされる商店街」となるよう、今後もさまざまな取り組みを行ってまいります。



■まちなかエリア活性化実行委員会



皆さんとお会いできる日を
楽しみにしています。
ぜひ商店街へ
お越しください!